

千葉県温泉行政

千葉県衛生部薬務課長

石川 貫

Administral View on the Hot Spa in Chiba Prefecture

Kan ISHIKAWA

Director of Pharmaceutical Affarirs Division,
Sanitation Department, Chiba Prefectural Government

千葉県は、首都圏の東側に位置し、東西約100km、南北約134kmで一部が太平洋に突き出た半島からなります。面積は、5,080.92km²で、東京都と神奈川県を合わせたより広く、全国で27番目です。

県東南部は太平洋に面し、西は一部東京湾に臨み、北西は江戸川を隔て東京都と埼玉県に接しています。北は、利根川を境に茨城県に接し、四方を海と川に囲まれ、水と緑の豊かな自然に恵まれています。

地形は、房総の南部が200~300mの山が連なる丘陵地帯、北部の北総地帯はおおむね平地で、西側には印旛沼を中心に地味肥沃な平野が一帯に広がります。海岸線の長さは、浦安から銚子まで、約500kmにわたり、天然の景勝に富んでいます。沖合は、南から北上する黒潮と、北から南下する親潮が合流し、我が国でも有数の漁場として知られて、年間を通じて各種の魚介類が水揚げされています。

気候は、海に囲まれているため、冬暖かく、夏涼しい過ごしやすい海洋性気候です。特に南房総の沿岸は、真冬でもほとんど霜が降りず、四季を通じて花が咲き乱れ、南国ムードに満ちあふれています。

次に千葉県の産業を御紹介します。先ず農業ですが、千葉県は、温暖な気候と豊かな土壌、そして大消費地の首都圏を抱えるという好条件に恵まれており、古くから「江戸の台所」として、野菜などの生鮮食料品の供給基地として栄えてきました。作目も、米、園芸、畜産がそれぞれ3分の1とバランスのとれた構造をしています。農業の粗生産額では、昭和44年から北海道、茨城県について全国第3位です。特に野菜の粗生産額は全国第1位、生乳の生産量は第2位を誇り、全国有数の農業県です。

次に漁業ですが、千葉県は、三方を海に囲まれ、沿岸、沖合の好漁場に恵まれています。半島沖合では、太平洋を北上する黒潮(暖流)と、南下する親潮(寒流)が合流することから、年間を通じて各種の魚介類が水揚げされています。海面漁業の漁獲量は全国第9位、水産加工業は第3位です。

千葉、東葛地域も中心に人口増加や都市化が進み、商業も盛んです。浦安から千葉にかけての

京葉ウォーターフロントには、東京ディズニーランドなどの舞浜アーバンリゾート、船橋ららぽーと、市川のニッケコルトンプラザなどの大規模ショッピングセンター、幕張メッセなどが立ち並んでいます。

千葉県の工業は、昭和30年代から東京湾の埋め立てが本格化し、京葉工業地帯が造成されたことにより、一躍、鉄鋼、石油化学などの重化学工業を中心とした、日本を代表する工業県になりました。昭和50年代に入ると内陸を中心に先端技術、成長産業の立地が進み、現在では10兆円規模の工業出荷額を誇り、全国第8位です。

特に、天然ガスかん水から生産されますヨードは、その鉱床の規模の大ききで日本一と称されており、その埋蔵量は約500万トンと推定されています。平成2年度におけるヨードの生産量は、「日本輸出ヨード工業組合」によりますと、6,619トンで全国生産量の85%を千葉県で生産しています。世界的に見ても、日本は全世界のヨード生産量の46%をしめており、世界第1位です。このヨードを生産している工場のひとつである「伊勢化学工業(株)」を30日のエキスカージョンで、御覧になる予定になっておりますが、このかん水を温泉として利用している施設もありまして、その実例については、後ほど触れたいと思います。

成田空港、千葉港という世界に開かれた日本の空と海の表玄関を持つ千葉県。この恵まれた条件を生かし、今県内各地では、新たな挑戦が始まっています。

「幕張新都心」「上総新研究開発都市」「成田国際空港都市」からなる千葉新産業三角構想の推進。木更津一川崎間をわずか15分で結ぶ東京湾横断道路の建設。房総の豊かな自然を生かし、新しいライフスタイルに応える房総リゾート地域整備構想の推進。どれも21世紀の千葉県を支える骨格となるビックプロジェクトです。これらのプロジェクトについて、若干触れておきたいと思います。

まず、「幕張新都心構想」ですが、幕張は東京都と成田空港のほぼ中間に位置しておりまして、湾岸道路、東関東自動車道、JR京葉線で、都心、成田空港とそれぞれ30分で直結しています。この交通アクセスに恵まれている新都心の全体面積は522ヘクタールで、そこに、住む、学ぶ、働く、憩うといった新しい首都機能の受け皿となる未来型国際都市を建設しています。

幕張新都心の核となる人・技術・情報の国際ステージが幕張メッセです。大規模な国際展示場、国際会議場、幕張イベントホールを一体的に備えており、平成元年10月にオープンしました。第28回東京モーターショーで記録的な入場者を集めたのをはじめ、各種イベント、国際会議などが開かれています。

次に「上総新研究開発都市構想」ですが、これは、木更津・君津市にまたがる上総丘陵が舞台です。民間の研究所を中心に、バイオテクノロジー、新素材、エレクトロニクスなどに代表される先端技術産業の研究開発拠点をつくります。

この上総地域は、東京湾横断道路が接岸する後背地にあたり、東関東自動車道、首都圏中央連絡自動車などが手に入ります。これらの高規格幹線道路が整備されると首都圏と直結し、便利性が飛躍的に高まります。豊かな自然にも恵まれ、人、技術、自然の調和のとれた新しい研究開発都市となります。

上総新研究開発都市のシンボルとして、バイオサイエンス、バイオテクノロジー分野の基礎研究を行うかざさディ・エヌ・エー研究所を設置します。全体が完成すると研究開発地区の面積は1,000ヘクタールとなり、このうち第1期分の約278ヘクタールについては、東京湾横断道路の完成する平成7年度までに完成の予定です。

「成田国際空港都市構想」ですが、成田空港は、国際線の貨物取扱量で世界第1位、旅客数は第8位を誇る国際航空網の拠点です。この国際空港の機能を最大限に活用するのが、成田国際空

港都市です。

世界から日本へ、日本から世界へ、生鮮食料品から工業製品まで幅広く航空貨物が行き来しています。そこで、航空貨物の増加に応じて、通関、集配送、保管、流通、加工、商品展示などの機能を総合的に備えた国際的な物流基地をつくります。

臨空工業団地は、空港周辺約10kmの地域を臨空工業ゾーンとして整備し、先端技術産業や外資系企業を積極的に誘致しています。既に、佐倉第三、空港南部、芝山第二、多古、大栄の5つの内陸工業団地が造成され、多くの企業が立地しています。

東京湾横断道路は、千葉県木更津市と神奈川県川崎市の15.1kmを約15分で結び、房総半島全体と首都圏を一体化し、更に国土幹線網の中心となります。

最後に「房総リゾート地域整備構想」についてご紹介いたします。

これからの21世紀に向け、人々の自由時間が増え、生活様式も多様化することに伴い、自然とのふれあいや健康づくり、地域、世代を超えた交流など、快適でゆとりある生活を求める声が高まっています。

房総半島は、温暖な気候と変化に富む海岸線、そして緑の丘陵と豊かな自然に恵まれており、近い将来、東京湾横断道路などで首都圏と直結されることにともない、首都圏3,800万人の格好のリクリエーション、リゾート地として、大きな期待が寄せられています。千葉県では、リゾート法に基づいて、県土の約3分の1にあたる17万8千ヘクタールに及ぶ広大な地域に、国際レベルのリゾート地を整備していくことにしています。このうち、民間のリゾート整備計画が進んでいる11地区を重要整備地区にしています。館山サンシャインリゾート、南房フラワーパークリゾート、勝浦タウンライフリゾート、銚子マリンリゾートなどで、自然豊かな房総半島の各地の特性や魅力を生かし、林間リゾート、海洋リゾートなど、首都圏の新しいライフステージを提供するプロジェクトであります。このプロジェクトの中で、南房総を中心にリゾートマンション、ホテル、ゴルフ場などに温泉を利用しようとする計画が進んでいます。

さて、千葉県の温泉ですが、千葉県には、熱い湯が出ませんので、温泉のない県として認識されている方が多いようですが、これは大きな誤りでございまして、冷泉ならば沢山ございます。

ちなみに、本日お泊まりの「ホテル南海荘」も立派な温泉でございます。

行政対応ですが、温泉法に係る許可については、当業務課において、温泉審議会の答申を得て行っており、監視は、18保健所の職員を温泉監視員に任命し実施しているところです。

平成2年度末における源泉数は、95本ありますが、このうち利用している源泉は62本で、更にこのうち23本が自噴しています。また、利用している62本の源泉のうち52本までが、25℃未満の水溫で、ほとんど冷鉱泉であります。泉質としては、ナトリウム-炭酸水素塩泉、含ヨウ素-ナトリウム-塩化物泉、ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉、単純硫黄泉の4つに大別できます。

ここで、千葉県の温泉をいくつかご紹介いたします。

J R外房線茂原駅から東へ10km、果てなく広がった青い海と輝く太陽にきらめく九十九里海岸沿いに千葉県九十九里自然公園白子集団施設があり、ここに、先程御紹介したヨードを生産する天然ガスかん水を温泉に利用した施設があります。白子町営の「白子町アクア健康センター」で、この施設には、温泉のほか、同じく天然ガスを利用して人工的につくった風変わりな砂風呂があります。また、同地区には、夏には海、そして、一年をとおしてできるテニスなど、多くの若人が、旅館や民宿を利用していますが、この旅館や民宿でも同様に温泉として利用している施設があります。温泉成分は、含ヨウ素-ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉です。同様成分の温泉は、内陸部にもあります。今年の4月、日本テレビの「山田邦子の旅くらぶ」でも紹介された養老溪谷の温泉地区です。ここは、房総半島の中南部、市原市の南端と大多喜町との境にあり、

房総丘陵と呼ばれるなだらかな緑の山並みの中を流れる養老川の清流沿いにひられた山里の温泉で古くから地域の人々に湯ぎめの知らない秘湯として親しまれてきました。清澄山を中心として付近一帯は、県立養老渓谷奥清澄自然公園として指定されており、緑と渓谷美の宝庫であります。春の新緑、溪流での釣り、この溪流を起点として樹木におおわれた川辺に行くハイキングコース、麻綿原高原の20万株以上のアジサイ、粟又の滝など名勝が多く秋の紅葉は一段と美しく、四季折々に彩りを変える渓谷美を見て歩き疲れた体を山の湯がやさしくつつんでくれる温泉であります。

この清澄山を中心とした一帯にはいくつかの温泉があります。亀山ダム湖畔にある亀山温泉、小櫃川上流に位置し、上総連山に囲まれた閑静な温泉で、硫黄泉の七里川温泉や清澄温泉などがあります。この清澄温泉は、古くは、湯が滝の湯といわれ、今から700年ほど昔、小松原法難で日蓮がこの地に逃れ岩角でけがをした時、一人の老人が現れ、この泉で傷口を洗い渴きをいやすようすすめたので、その通りにしたらたちまち痛みは去り、出血は止まったが、鮮血は川に流れ赤く染まり、いつの間にか老人は血の流れと共に消えてしまいました。それ以来、人々はこの川を赤井沢と名付けたそうです。一方、日蓮は老人のおかげで現在の天津小湊町に着くことができ、その後何度かここを訪ね、老人の恩に報いたいと思いいろいろさがしましたが、ついに見つけることができませんでしたので、日蓮は老人の後生を祈り終生忘れなかったということです、この泉が、現在の清澄温泉だといわれております。

では、このへんで内陸の上総丘陵地域から目を南房総地域に移してみます。

J R内房線の浜金谷駅を降りると標高329mの鋸山が目前眺望できます。この鋸山の北腹から引湯して誕生したのが、含ヨウ素一ナトリウム塩化物・炭酸水素塩泉の比較的歴史の新しい温泉郷、鋸山金谷温泉地区があります。鋸山は、その名のとおりに鋸の刃のように切り立った絶壁が連なる岩山で、房州石の産地として知られ、垂直に切り立つ石切り場には、当時のノミの跡が生々しく残っています。山頂からの眺望はすばらしく、東京湾はもちろん、三浦半島・伊豆半島・丹沢・秩父・富士山など360度の雄大なパノラマが開け、切り立つ崖から垂直に見下す地獄のぞき、山腹には高さ30mの百尺観音、1533体の羅漢群など見どころがいっぱいです。是非、一度おこしいただきたい場所のひとつでございます。

J R内房線の浜金谷駅から南に下りまして、岩井駅の東2 kmの位置に、三方を山で囲まれた岩婦湖があります。ここは、滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」の舞台でもよく知られている富山の南に位置していますが、この湖畔に、古くから万病に効く薬湯として近隣の人々に親しまれてきた硫黄泉の岩婦温泉があります。

さらに南に下ってまいりますと、館山、そして、当地白浜となります。

白浜地区の温泉は、ナトリウム一塩化物泉が中心ですが、この白浜は、房総再南端に位置し、夏は涼しく冬暖かく、冬でもお花畑にキンセンカ、菜の花、ストック、ポピーなどが咲き競い、潮騒の音を耳に花の香りがいっぱい一足早い春が楽しめるような地であります。日本最古の洋式8灯台のひとつとして、明治2年に点灯された野島崎灯台、昭和60年にシンガポール国立植物園と姉妹関係を結び、園内にある多数の温室には、熱帯、亜熱帯植物などが生い繁り、南国ムードたっぷりの南房パラダイスなど見どころもたくさんあります。どうか房総の自然を満喫していただけるようお願いいたします。

以上、千葉県温泉の一部をご紹介しましたが、このように温泉を利用している旅館・公衆浴場等の施設は、平成2年度末で、91施設で、これらを利用した人は、1年間で959,735人であり、平成元年度よりやや利用者数が減ったものの、ここ数年温泉ブームを反映して、温泉利用者は増加の傾向にあります。

さて、この温泉ブームを反映しての今後の千葉県の温泉行政についてですが、本年度から県政

の長期ビジョン「2000年の千葉県」に基づく第2期の総合計画として「さわやかハートちば5か年計画」がスタートしました。このなかで、21世紀に向けて豊かさを実感できるふるさと千葉を築いていくために、3つの基本的な考え方をもって県づくりを進めていくこととしています。その3本柱のひとつに、「人、自然、産業、地域の豊かな交流と調和・『ちばハーモニー』の創造」とありまして、これを千葉県の温泉に当てはめますと、温泉という自然の宝を人が利用し、その地域の産業に大きな進展をもたらすことによって、地域の人々とこれを利用する人々のハーモニーを創造することは、まさに、このことかと思えます。千葉県の今後の温泉行政も、この基本的な考え方に沿った方向で、進めて参りたいと考えております。それには、先ず、多くの方々千葉県の温泉を利用していただくことが、必要かと思えます。本日御来場の方々におかれましても、千葉県の温泉、房総の自然を十分満喫されまして、お帰りの際は、千葉県の温泉をピーアールしていただければ幸いですと考えております。

御清聴ありがとうございました。

